

1 日ごろのお礼・PTA 活動へのお礼

役員の皆様はじめ、坂中 PTA 委員の皆様には、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。格別、コロナ禍での教育活動については、学校が活動しやすいようにご理解とご協力を頂いていることに感謝申し上げます。

また、PTA 活動についても、いつものように活動できず、困難な状況ではありますが、その中で活動して頂いていることに、心から敬意と感謝をお伝えさせていただきます。本当にありがとうございます。

2 本日の会合について

役員以外の皆様がこのように全委員会としてお集まり頂くのは、今日がはじめてということで、今後の活動計画などご協議いただくこと、誠にありがとうございます。コロナ禍で、様々制約がありますが、無理がない中でも、何がどのようにできるのかということで、ご協議頂ければ幸いです。ただし、あくまでも健康・安全第一でお願いいたします。

3 学校よりお願いとお知らせ

(1) コロナの状況と 本年度の教育活動について

ア 昨年のこの 6 月は、ちょうど分散登校などが始まったころです。1 年数ヶ月以上、コロナ対応で難しい状況が続いています。春日井市では先月 5 月 1 か月で 611 人の感染者がありました。小中学校でも、連日どこかで陽性者があり、消毒・臨時休業というのも事実です。誰が感染してもおかしくない状況ですし、そのような中ではありますが、市内の小中学校では、クラスターが発生していないのは、それぞれ互いに努力によるところです。もし感染があったとしても、人権保障は学習保障などからも、その生徒を守っていくことは、当然のことです。坂中生もよくやってくれています。ただ、気が抜けるとき、気を抜くときもありますし、これからの時期のマスクの着用と熱中症予防については、両立が悩ましいところではあります。屋外でも、「話をするならマスク着用」「声を出すならマスク着用」、息苦しときにはマスクを外しますが「マスクを外したらしゃべらない・大きな声を出さない」について、粘り強く働きかけて、みんなで取り組んでいるところです。

イ そのようなコロナ禍ですが、生徒の学習保障と感染症防止を優先して、できることは何か、どうすればできるかの方針で取り組んでいます。しかし、変異株の拡大とまん延防止等重点措置や緊急事態宣言のもとでは、決して無理をすることができません。生徒の健康・安全第一を最優先しています。5 月の野外学習、本当であれば今週に実施していた修学旅行の 9 月への延期、その他、進路説明会を動画視聴にしたり、水泳の授業の中止判断など、本当に心苦しいところではあります。幸いなことに、生徒の様子からは、落胆して…というよりは、前向きに気持ちを切り替えている様子に救われています。今後も、コロナの状況によっては変更もあり得ます。何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

ウ 本年度の取り組みについて

「すべての最善を」「健康・安全第一」「凡事徹底」など、校訓、毎年の合い言葉の他に、「自分に挑戦」

「みんなで取り組む」の2つを1年間通して取り組んで行くこととして生徒には伝えて共有しています。

そして、「自分」という軸と「みんな・まわり」という軸で、学校の中の教育活動を整理して取り組んでいくことにしています。例えば、職業調べや進路に関する活動、体力テストや健康診断や発意測定、さらに定期テストなどは主に「自分」、野外学習や修学旅行、スポーツ・レク大会、春日台特別支援学校との交流などは主に「まわり・みんな」。主な軸としてという部分ですので、両方の軸に関連している教育活動が少なからずあります。

一方で、「坂中の学習と評価」でお示ししましたように、本年度4月から、新学習指導要領全面実施、新しい教科書を使用しながらの授業に取り組んでいます。

坂中生一人一人が、「自ら主体的に学習できる生徒」となるよう、学習の内容だけでなく、学習の方法、学び方を身につけさせ、さらに、1人1人が自分の学習の状況をよく見つめて、自分に合わせて学習したり、グループなどで互いに考えを伝え合ってみんなで解決していくなど、協働的な学習に取り組んだりします。それに、寄与するもののひとつが、1人1台のタブレットPCの活用です。生徒はどんどん慣れている様子があります。この1学期は「試して整える」として、まずはどんどん試そう、トライしてみよう、として取り組んでいます。まずは慣れることを第一に、慣れてきたらよりスムーズに、より効果的に活用しようというところです。

（2）本年度の坂下中が取り組んでいる事業について

本年度の坂下中学校は、次の2つの事業に取り組んでいるところです。

1つめ「愛知県 ICT 活用推進モデル事業」です。

先ほどの ICT 活用・1人1台のTPCにも関連しています。

つい先日、NHKの番組「まるっと」で、市内の先進校として、高森台中の授業の様子、TPCの活用の様子や生徒のインタビューが特集として放映されました。春日井市は、ICT活用について、県内だけでなく、全国的にも注目されている学校がいくつかあります。坂中もその中の一つとなるよう、モデル事業の実践校として取り組み始めているところです。その関連で、坂中の授業をよりよくしていくために、教職員向けの授業研究会を年間3回実施することとして、東京学芸大学准教授の登本洋子先生から指導・助言を受けながら、日常の授業改善に取り組んでいるところです。また、本校の教職員だけでなく、県内の教職員向けに11月と2月の授業研究会を実施することも予定しています。

2つめ「地域部活動推進事業」です。

「部活動を地域で」ということに関する国・県の事業です。生徒の健康・安全面や生徒の自己実現やチーム目標への達成などと、教員の働き方改革とのバランスとの関連で、「部活動を地域で」という流れが、スポーツ庁が主体で行われ、関連の事業が始まりました。令和5年度からは、さらに段階的に広げていくという方向が示されています。この「地域部活動推進事業」は実証実験で、その成果や課題をもとに、さらに地域部活動への仕組み作りをどうしていくのかをまとめていく事業です。愛知県では、県内1市1町

がその事業の対象で、春日井市がその対象となり、市内 5 つの中学校の 6 つの部活動、その中のひとつが、坂中の女子ソフトテニス部となっています。具体的には、春日井市では、部活動指導員だけに週末の活動・指導を任せていこうという試行です。その場合は、顧問は活動に参加しません。ちょうど本日女子テニス部でも懇談会で説明がされることになっています。ただ、緊急事態宣言のこともあり、本校で実際に始めるのは、もう少し先になります。このような事業に参加する中で、生徒や保護者の皆さんにも、部活動に関するこのような流れがあることについて知って頂きながら活動に参加してもらえたらと考えております。